

平成29・30年度

大分県租税教育推進協議会委嘱

租税教育公開研究発表会

研究主題

地域を知り、自他のよさを認めながら、地域の未来を創ろうとする子どもの育成
～租税教育の視点を取り入れた地域学習を中心にして～



平成30年11月27日（火）

別府市立朝日小学校

目 次

I	研究の概要	1
1	研究主題	
2	主題設定の理由	
3	租税教育でめざす子どもの姿	
4	研究組織	
5	研究方法	
6	研究経過	
II	租税教育全体計画	6
III	実践報告	7
1	意識調査・分析部会の取組	
2	地域教材・教育課程部会の取組	
3	授業研究部会の取組	
4	環境整備部会の取組	
5	租税教室の開催（各学年）	
IV	研究のまとめ	37

I 研究の概要

1 研究主題

地域を知り、自他のよさを認めながら、地域の未来を創ろうとする子どもの育成
～租税教育の視点を取り入れた地域学習を中心にして～

2 主題設定の理由

(1) 学校教育目標から

本校では、学校の教育目標を「ふるさとを愛し 未来を創る朝日っ子の育成 ～本気・元気・思いやり～」とし、「生きる力」の育成を通して日々教育活動に取り組んできた。子どもたち一人一人が、本気で考え、全力で追究し、人との関わりを深めて取り組むことを通し、得られた喜びや達成感を自分の自信としていく姿を願っている。

「ふるさとを愛する子ども」は、地域の歴史や伝統文化、人々等から自分が暮らす地域のことを学び、ふるさとへの誇りや愛着を持つ子どものことであり、「未来を創る子ども」は、これからの時代に求められる資質・能力を培い、自分やふるさとの未来を創造していく子どもであると考えている。

地域の未来を創る子どもの育成をするためには、まず、自分の暮らす地域を知り、地域を大切にしようとする心の育成が大切である。ふるさとをもっと知り、ふるさとをもっと暮らしやすくしていこうとする心を育てていくことが求められる。

このような教育活動を進めていく中、昨年、大分県租税教育推進協議会から「租税教育研究校」に委嘱され、本校の研究主題を考えていくことにした。

(2) 子どもの実態から（租税教育に関する子どもの実態）

本校の子どもは、総じて、明るく素直である。児童会を中心にしたあいさつ運動を毎週3回実施し、心のこもったあいさつができる学校を目指して積極的に取り組んでいる。しかし、中には自己肯定感に乏しく、自分の思いをストレートに相手にぶつけ、友達とトラブルを起こしてしまう子どもがいる。また、校区に別府八湯に指定されている鉄輪、明礬温泉をもつとともに、新興住宅が多く、他の市町村から転入してきた人と昔から住んでいる人とが混住している。学校や子どもたちを支え、応援してくれる人がいる一方で、地域住民からの厳しい指摘も少なくない。

租税教育の研究を進めていく上で、地域との関わりや社会性を考えていくことは必須である。平成29年10月に実施した全校アンケートの結果（子どもの肯定的な回答の割合）では、「地域のお祭りや行事に行ったことがありますか」は75.7%、「地域のよさが言えますか」は51.8%となっており、地域についての体験や理解が十分とは言えず、ふるさとを愛する気持ちが育っているとは言えない。また、「自分にはよいところがあると思いますか」は76.7%、「みんなが使う物を大切にしていますか」では95.5%に対し、「進んでみんなのために役立つことをしたことがありますか」は60.1%となっており、集団での関わりやみんなのために何かをするという気持ちが育っているとは言えない。さらに、「税や税金という言葉を知っていますか」は50.6%、「税金は大切だと思いますか」は41.6%となっており、税に関する知識や理解が十分とは言えない。

(3) 租税教育の目標から

大分県における租税教育は、「租税に関連した事項を通して郷土についての関心を高め、公民としての資質を身につけ、国家及び社会における権利と義務の主体者として自主的に判断し行動するための諸能力を育てる」ことにねらいを置いている。このことから、本校での租税教育の目標を「①

地域に関心を持ち、地域をよりよくしていこうとする態度を育てる」「②集団や社会のことを考え、みんなのためになることをしようとする態度を育てる」「③租税についての正しい知識・理解を深める」に設定した。

上記のようなことから、本年度の研究主題を「地域を知り、自他のよさを認めながら、地域の未来を創ろうとする子どもの育成 ～租税教育の視点を取り入れた地域学習を中心にして～」と設定し、租税教育の目標を中心としたテーマで研究に取り組んでいくことにした。

3 租税教育でめざす子どもの姿

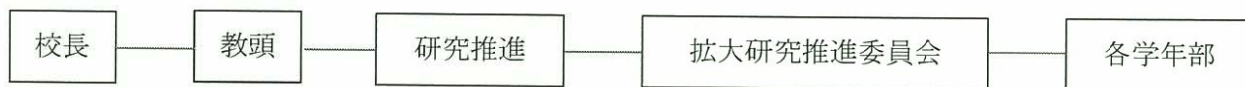
大分県における租税教育の目標から、本校のめざす子どもの姿を「①地域に関心を持ち、地域をよりよくしていこうとする態度を育てる⇒郷土愛」「②集団や社会のことを考え、みんなのためになることをしようとする態度を育てる⇒集団と社会的自立」「③租税についての正しい知識・理解を深める⇒税の学習」と捉えていく。

租税教育における各学年の指導の重点目標			
	郷土愛	集団と社会的自立	税の学習
目標	地域に関心を持ち、地域をよりよくしていこうとする態度を育てる。	集団や社会のことを考え、みんなのためになることをしようとする態度を育てる。	租税についての正しい知識・理解を深める。
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域（郷土）の自然や行事を知り、楽しむことができる。 ・地域（郷土）の人々と関わることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなこと、得意なこと、できることを増やし、様々な活動への興味・関心を高めながら意欲と自信を持って活動できるようにする。 ・約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切ににする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りに公共物があることを知る。 ・租税教室に取り組む。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域（郷土）の文化や伝統を知り、大切にしようとする。 ・地域（郷土）の人々の願いや思いを知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちのよさを認め、協力して活動する中で自分の持ち味や役割を自覚することができるようにする。 ・約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。 ・働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共の仕事や施設の大切さに気づく。 ・租税教室に取り組む。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域（郷土）の文化を守ってきた人々の努力を知り、愛する心を持つ。 ・地域の一員として自分たちができようことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なことや初めて経験することに失敗を恐れず取り組み、そのことが集団の中で役立つ喜びや自分への自信につながるようにする。 ・公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にし、進んで義務を果たす。 ・公共のために役に立つことをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・税の大切さを理解する。 ・租税教室に取り組む。

4 研究組織

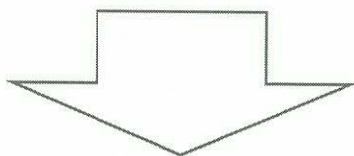
本研究では、研究推進のメンバーで素案を示し、拡大研究推進委員会（研究推進、各学年主任、各部会リーダー）で検討し、共通理解を図っていった。また、1年次に研修4部会を立ち上げ、目標を達成するために各部会が取り組みを進めていった。研修4部会には、各学年部から、必ず一人は所属

し、研修部会で決まったことは、すべての職員に周知し、共通理解を深めた。さらに、2年次には、租税教育の研究を更に深めるため、部会内容の付加修正を行い、新研修4部会として研究を進めていった。



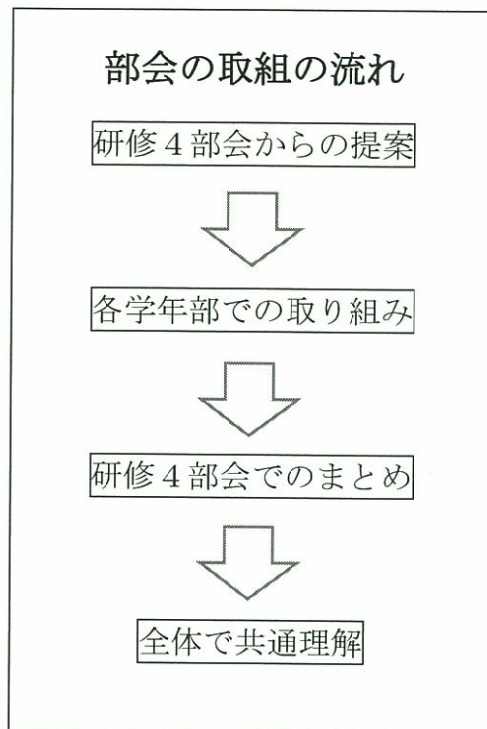
< 1年次の研修4部会 >

- 意識調査・分析部会（アンケート作成・分析）
- 教育課程見直し部会（租税教育年間指導計画）
- 地域教材・人材部会
（校外活動、ゲストティーチャー）
- ペア・グループ学習部会



< 2年次の新研修4部会 >

- 意識調査・分析部会（アンケート作成・分析）
- 地域教材・教育課程部会
（校外活動、ゲストティーチャー）
- 環境整備部会
（教室・学年掲示、ふるさとコーナー）
- 授業研究部会（ペア・グループ学習）



5 研究方法

(1) 全体研究授業

低・中・高学年部で各代表授業者が、本校が立てた租税教育における各学年の指導の重点目標（郷土愛、集団と社会的自立、税の学習）を中心にした授業づくりをし、全体で検証していく。

(2) ペア・グループ学習

これまで本校が研究をしてきたペア・グループ学習を積極的に活用する。

(3) 新研修4部会

1年次の研修4部会から引き継ぎ、意識調査・分析部会、地域教材・教育課程部会、環境整備部会、授業研究部会が、各々で研究した成果を発表する機会を設け、日々の実践に生かす。

6 研究経過

< 1年次 >

期 日	曜	研究内容
4月10日	月	大分税務署より広報官来校、本年度の方針提案
4月11日	火	研究推進委員会（本年度の方向性）
4月24日	月	研究推進委員会
5月17日	水	研究研修計画/授業改善

6月 7日	水	指導案形式提案
6月21日	水	研修計画/第2学年指導案審議
6月28日	水	第2学年全体研②/事後研
7月 5日	水	研修4部会話し合い
7月12日	水	研修4部会話し合い
7月19日	水	研修4部会話し合い
7月26日	水	研修4部会より提案
8月23日	水	意識調査・分析部会より提案
8月30日	水	研修4部会より報告
10月18日	水	第3学年指導案審議
10月12日	木	直入中学校租税教育公開研究発表会参加
10月16日	月	租税教室（3年） 税理士来校
10月26日	木	第3学年全体研③/事後研
11月 8日	水	研修4部会話し合い
11月17日	金	租税教室（5年） 税理士来校
11月22日	水	第5学年指導案審議
11月24日	金	租税教室（1, 2年） 中津法人会来校
11月28日	火	第5学年全体研④/事後研
12月 6日	水	研究紀要/研修4部会報告
12月 8日	金	租税教室（4年） 税理士来校
12月12日	火	租税教室（6年）
1月17日	水	租税教育について
1月31日	水	研修4部会話し合い
2月14日	水	租税教育のまとめ
2月21日	水	研究紀要作成

< 2年次 >

期 日	曜	研究内容
4月12日	水	本年度研究の方向性、研究組織、全体研日程計画
5月 2日	水	研修計画、租税教育の重点目標提案
5月16日	水	第5学年指導案審議
5月23日	水	第5学年全体研①/事後研
5月31日	木	租税教室（1, 2年） 中津法人会来校
6月 6日	水	第4学年指導案審議
6月 8日	金	租税教室（3年） 税理士来校 選挙管理委員会打合せ
6月13日	水	第4学年全体研②/事後研
6月14日	木	租税教室（6年） 税理士来校 出前選挙授業 選挙管理委員会来校
6月20日	水	第1学年指導案審議
6月22日	金	租税教室（5年） 税理士来校
6月27日	水	第1学年全体研③/事後研

6月28日	木	租税教室（4年）
7月4日	水	研修4部会話し合い
7月18日	水	発表紀要原稿内容提案
8月7日	火	発表紀要原稿内容検討
8月22日	水	第2学年指導案審議
8月29日	水	第3学年指導案審議、第5学年指導案審議
10月10日	水	第2学年指導案審議
10月17日	水	第3学年指導案審議
10月31日	水	第5学年指導案審議
11月27日	火	租税教育公開研究発表会

Ⅱ 租税教育全体計画

【学校教育目標】 ふるさとを愛し 未来を創る朝日っ子の育成 ～本気・元気・思いやり～

<ふるさとを愛する子ども>

地域の歴史や伝統文化、人々等から自分が暮らす地域のことを学び、ふるさとへの誇りや愛着を持つ子どもの育成

<未来を創る子ども>

これからの時代に求められる資質・能力を培い、自分やふるさとの未来を創造していく子どもの育成

租税教育の目標

- ・地域に関心を持ち、地域をよりよくしていこうとする態度を育てる。
 - ・集団や社会のことを考え、みんなのためになることをしようとする態度を育てる。
 - ・税についての正しい知識・理解を深める。
- ※社会の一員としての意識・郷土愛

児童の実態

- ・いろいろなことに興味を持ち、活動的である。
- ・自分の考えを伝えることが苦手な児童がいる。
- ・学校の物や公共物を大切に扱えない児童がいる。
- ・自分の地域についてよく知らない児童が多い。
- ・税金についての知識や理解があまりない。

【研究主題】 地域を知り、自他のよさを認めながら、地域の未来を創ろうとする子どもの育成

～租税教育の視点を取り入れた地域学習を中心にして～

ペア・グループ学習を通じた授業づくり

租税教育における各学年の指導の重点目標

	郷土愛	集団と社会的自立	税の学習
目標	地域に関心を持ち、地域をよりよくしていこうとする態度を育てる。	集団や社会のことを考え、みんなのためになることをしようとする態度を育てる。	税についての正しい知識・理解を深める。
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域（郷土）の自然や行事を知り、楽しむことができる。 ・地域（郷土）の人々に関わることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなこと、得意なこと、できることを増やし、様々な活動への興味・関心を高めながら意欲と自信を持って活動できるようにする。 ・約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りに公共物があることを知る ・租税教室に取り組む。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域（郷土）の文化や伝統を知り、大切にしようとする。 ・地域（郷土）の人々の願いや思いを知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちのよさを認め、協力して活動する中で自分の持ち味や役割を自覚することができるようにする。 ・約束や社会のきまりを守り、公德心を持つ ・働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共の仕事や施設の大切さに気づく。 ・租税教室に取り組む。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域（郷土）の文化を守ってきた人々の努力を知り、愛する心を持つ。 ・地域の一員として自分たちができることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なことや初めて経験することに失敗を恐れず取り組み、そのことが集団の中で役立つ喜びや自分への自信につながるようにする。 ・公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。 ・公共のために役に立つことをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・税の大切さを理解する。 ・租税教室に取り組む。

指導の場（教科・領域）

各教科（特に生活科、社会科、家庭科） 道徳 総合的な学習の時間 外国語活動

特別活動

※特別活動は、すべての指導の場を支える基盤として位置付ける。

Ⅲ 実践報告

1 意識調査・分析部会の取組

(1) 意識調査・分析部会のねらい

租税教育の取組の中で、児童の意識がどう変容するかを見るために、アンケートを昨年度2回(租税教室や個人研究授業を行う前の10月と行った後の1月)、今年度7月に1回実施した。調査内容は「租税教育における各学年の指導の重点目標」に対応して、「郷土愛」「集団と社会的自立」「税の学習」に関わるものになっている。

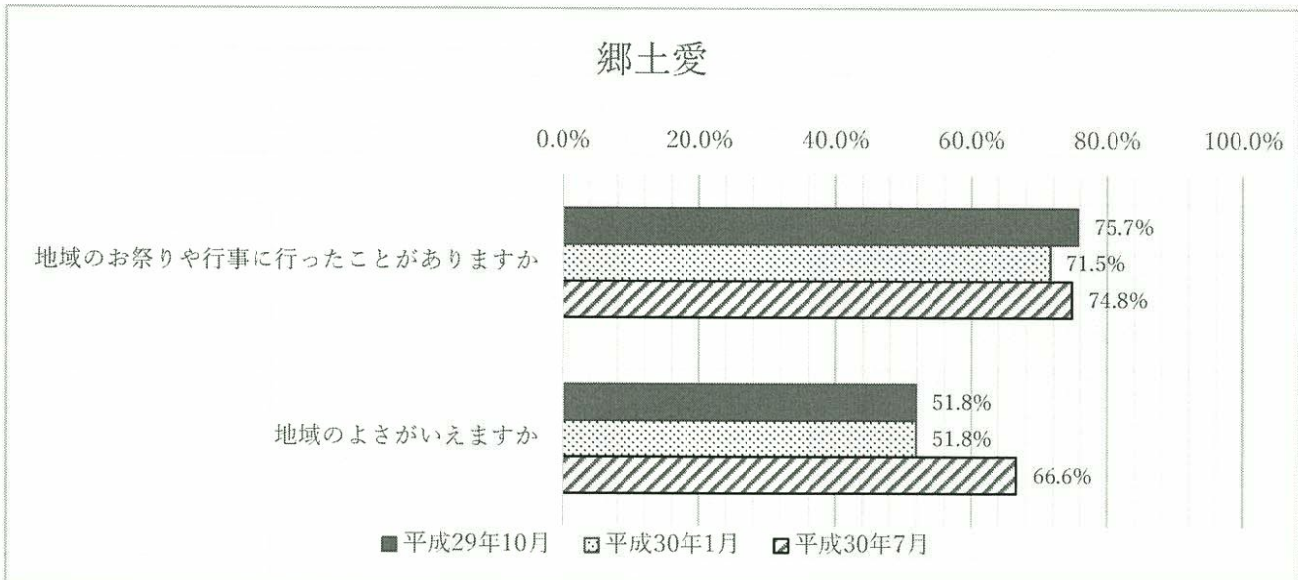
(2) 取組内容

今年度は、7月に全校でアンケートを実施した。集計後、学年ごとに分析し、これまでの結果との比較により、よいところと課題をまとめた。各学年部の重点目標と照らし合わせ、これからの取組を考え、全校で共通理解した。

(3) アンケートの結果と考察

①郷土愛に関わる項目について

ア 集計結果 (肯定的回答の割合)



項目	1回目 (平成29年10月)	2回目 (平成30年1月)	3回目 (平成30年7月)
地域のお祭りや行事に行っただことがありますか	75.7%	71.5%	74.8%
地域のよさがいえますか	51.8%	51.8%	66.6%

イ 考察

(ア)「地域のお祭りや行事に行っただことがありますか」について、数値があまり上がっていないのは、行動にまで至っていないためであると考え。

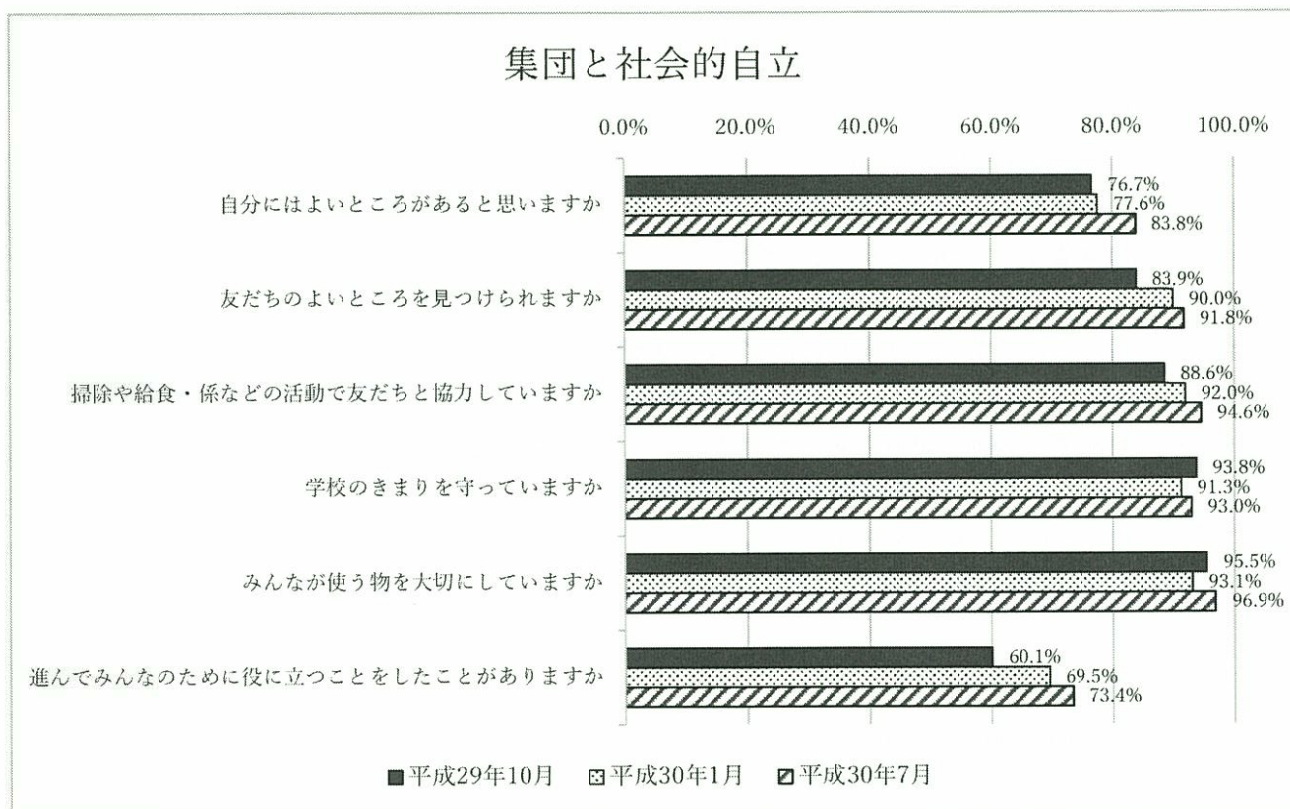
(イ)「地域のよさがいえますか」の肯定的回答の割合は、1回目、2回目より3回目が高くなっている。1回目、2回目では「温泉がある」「地獄がある」というような記述が多かったが、3回目では「地域の人優しい」「笑顔であいさつをしてくれる」等地域の人との関わりか

らのよさに目が向いたような記述が増えた。これは、生活科や総合的な学習の時間等で継続的な取組をしたことや、地域素材について「別府学」の活用を推進してきたことも効果的だったのではないかと考える。

今後は自分の地域のよさを知るために、地域の人や、観光客など地域外の人からの話を聞くような交流の場を増やしていくことも大切だと考える。

②集団と社会的自立に関わる項目について

ア 集計結果（肯定的回答の割合）



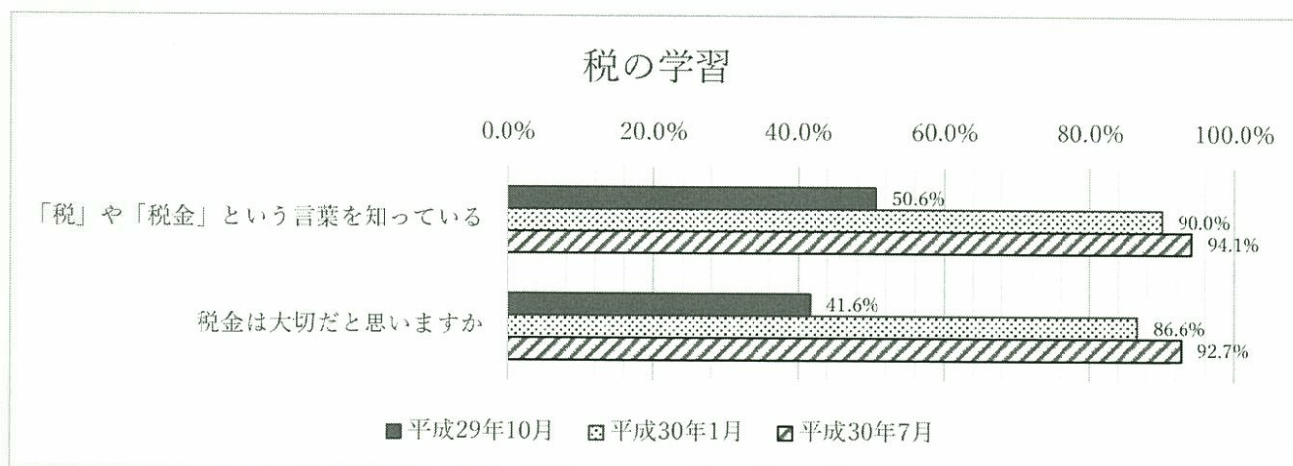
項目	1回目	2回目	3回目
	(平成29年10月)	(平成30年1月)	(平成30年7月)
自分にはよいところがあると思いますか	76.7%	77.6%	83.8%
友だちのよいところを見つけられますか	83.9%	90.0%	91.8%
掃除や給食・係などの活動で友だちと協力していますか	88.6%	92.0%	94.6%
学校のきまりを守っていますか	93.8%	91.3%	93.0%
みんなが使う物を大切にしていますか	95.5%	93.1%	96.9%
進んでみんなのために役立つことをしたことがありますか	60.1%	69.5%	73.4%

イ 考察

- (ア)「自分にはよいところがあると思いますか」「友だちのよいところを見つけられますか」については、ともに80%以上で、前回より肯定的回答の割合が増えている。昨年度末、80%以下だった「自分にはよいところがあると思いますか」については、6.2ポイント増えている。自他のよさを意識できる児童が増えたことがわかる。
- (イ)「掃除や給食・係などの活動で友だちと協力していますか」については、2回目・3回目ともアンケートで肯定的回答の割合が90%以上になり、児童が自分の役割に自覚を持ち取り組んでいることがわかる。
- (ウ)「学校のきまりを守っていますか」「みんなが使う物を大切にしていますか」については、3回ともその割合は90%を超えている。学校の決まりや公共物を大切にしようとする児童は多いので、今後もその大切さを伝えていきたい。
- (エ)「進んでみんなのために役立つことをしたことがありますか」については、3回目のアンケートでも73.4%で、80%以下であったが、1回目、2回目、3回目と肯定的回答の割合は増えている。さらに、「どんなことをしたか」という記述欄には、1回目のアンケートでは、「友だちが落としたものを拾ってあげた」など、個人的な関わりに関する回答がほとんどであったが、2回目には、「挨拶運動に参加した」など、みんなのためになることの記述が増えていた。3回目には「海岸清掃に参加した」「公園の掃除をした」など、学校外の場所での活動の記述もあった。「役立つこと」に対する意識が変わってきているようである。今後さらに、児童がみんな（全体・公共）のために行動できるよう、授業や行事の中で取り組んでいく必要があると考える。

③税の学習に関わる項目について

ア 集計結果（肯定的回答の割合）



項目	1回目 (平成29年10月)	2回目 (平成30年1月)	3回目 (平成30年7月)
「税」や「税金」という言葉を知っている	50.6%	90.0%	94.1%
税金は大切だと思いますか	41.6%	86.6%	92.7%

イ 考察

(ア) 税についての知識や税金については、1回目に行ったアンケートでは認識自体とても低く、税金に対する誤解等の回答も多かったが、租税教育(租税教室等)や総合的な学習の時間、道徳、社会科等の授業の中で税金に対する授業を行うことにより、大幅に数値が上がった。3回目もさらに数値が上がり、「税金とは何なのか」、「税金はなぜ社会に必要なのか」ということの理解が深まっているのではないかと考える。

(4) 成果と課題

昨年度と今年度で3回、アンケートを取り、3回目ではすべての項目で数値が上がっていた。この結果を授業に反映させ、再度取組を考え実践していった成果だと考える。その結果、集団と社会的自立、郷土愛、税の学習についての児童の意識が高まった。

生活科や総合的な学習の時間等の授業や別府学の活用で地域のことを知る学習を進めたことで、地域のよさを言葉にすることができるようになったと考える。分析の中にも書いたが、以上のような学習での継続的な取組はもちろん、教える側の意識も大きく影響しているのではないかと考える。今後も引き続き、児童が地域とつながりをもてるような視点をもって児童と関わっていくことが大切であると考えます。

『税』や『税金』という言葉を知っていますか』『税金』は大切だと思いますか、両方の項ともに数値が上がっている。租税教室が生かされて、税・税金という言葉を知って継続して学習したことで理解が深まり、税金に対して集められるという認識より、なかったら困るもの、自分たちに必要なものという認識をする子どもが増えたと考えます。

2 地域教材・教育課程部会の取組

(1) 地域教材・教育課程部会のねらい

- ①全教職員で貴重な地域教材・人材を発掘し、継続的に租税教育を行っていく。
- ②租税教育を計画的、継続的に行っていくために、教科や学年など子どもの全体的な教育活動を見通して、全教職員が共通理解を図るために教育課程を見直していく。

(2) 取組内容

- ①各学年で朝日小校区・別府市内をまわり、教材として扱えるものを発掘する。
- ②地域の方々と連携をとり、学校運営協議会等を通して地域人材を発掘する。
- ③租税教育を実施するにあたり、集団と社会的自立、郷土愛、税の学習の3つの観点で租税教育年間指導計画を作成し、計画的、継続的に学習していくことにした。また下記のように共通理解を図り、租税教育年間指導計画を作成した。

租税教育年間指導計画 作成手順

1 教科・領域について

低学年	生活科・道徳・その他
中学年	社会科・総合的な学習の時間・道徳・その他
高学年	社会科・家庭科・総合的な学習の時間・道徳・その他

- (1) 「その他」については、必要に応じて3つの視点に合う内容があれば、上記以外の教科から選んでもよい。
- (2) 学活は入れない
- (3) 単元を選択する観点は集団と社会的自立、郷土愛、税の学習である。特に郷土愛に関する内容では別府学の年間指導計画、地域教材・人材部会の成果を生かすようにする。

2 表記の仕方

- (1) 4項目のどれかに、月に一つは必ず入れる。
(全部に必ず入れる必要はない。1項目でも2項目でもよい。)
- (2) 年間を通して、3つの視点を網羅すること。
- (3) 教科・単元名・時間を入れる。

(3) 平成30年度 地域教材・人材一覧

学年	教科・領域	単元名	教材・人材	実施月
1	生活	秋見つけ	南立石公園・鉄輪東公園	10～11
1	生活	動物と触れ合おう	山地獄	12
2	生活	秋のまち	湯あみ祭り	9
2	生活	話を聞きにいこう	地獄蒸し工房（横大路さん） 朝日大平山地区公民館	5・11
2	生活	たんけんに出かけよう	海地獄・鬼山地獄	10
3	社会	わたしたちの町を探検しよう	火売神社（宮司さん）	6
3	総合	鉄輪を知ろう	地獄蒸し工房・鉄輪蒸し湯 ポケットパーク・洪の湯 永福寺・すじ湯・上人湯 市役所温泉課（中村さん） 熱の湯・地獄原温泉	10～11
4	社会	火災からまちを守るために	別府市消防署本部	5
4	社会	ごみはどこへ	藤ヶ谷清掃センター	6
4	総合	地域の自まんを見つけよう	地獄めぐり・地獄蒸し 鉄輪温泉	6
5	総合	米作りをしよう	学年の田（宮崎さん） 内成棚田とむらづくりを守る会 （後藤さん）	4～10
5	社会	情報を伝える人々	CTBケーブルテレビ 今日新聞社	10
5	社会	地域の特色を活かした農業生産	大分県温泉熱花き研究指導 センター	10
6	社会	古墳をつくった人々	鬼の岩屋古墳・実相寺古墳 （別府市役所 秦さん）	10
6	社会	武士の政治のはじまり	銭亀峠の道標	6
6	社会	全国統一の動き～関ヶ原の戦い～	大友本陣跡	6～7
6	総合	伝統的な盆踊り歌「ヤッチキ」	地域の方（宮崎さん他）	9

地域教材・人材を生かした活動の様子



消防署で放水体験



学校のすぐそばの田んぼ



馬場公園



山地獄でお話を聞く



田んぼの先生



ミシンの先生

(4) 各学年の年間指導計画

第1学年 租税教育 年間指導計画

	郷土愛	集団と社会的自立	税の学習
4月		㊦みんなでたのしく(1) ㊦わくわくどきどきしょうがっこう(4)	
5月	㊦はるをみつけにいこう(3) ㊦こうえんでみつけたP2~3	㊦あいさつでしあわせに(1) ㊦がっこうたんけんにいこう(4)	㊦がっこうのあんぜん(2) ㊦わたしにできること(1)
6月	㊦なつともだちになろう(1)	㊦きいろいベンチ(1)	㊦つうがくろのあんぜん(1)
7月	㊦なつとあそぼう(3) ㊦たのしみだね なつやすみ(1) ㊦まちたんけん(1)		
9月	㊦なかよくなろうね小さなともだち(1) ㊦みぢかな生きもの①P8~9	㊦おとしよりといっしょに(1)	
10月	㊦もみじがり(1) ㊦あきをみつけにいこう(2) ㊦こうえんでみつけた②P6~7		
11月	㊦山じごくでどうぶつとふれあおう(3)	㊦すてきなことば「あふたあゆう」(1) ㊦あきのたからものであそぼう(3)	㊦学校のやくそくやきまりをまもって(1)
12月	㊦たのしみだねふゆやすみ(1)	㊦ルールがないとどうなるの(1)	㊦みんなの一日(2)
1月	㊦むかしからのあそびをしよう(2)		㊦学校の生活をたのしく(1)
2月	㊦ふゆとあそぼう(3) ㊦ぎんのしずく(1)	㊦はしのうえのおおかみ(1) ㊦一日一年生(3)	
3月	㊦もうすぐ2年生(1)	㊦たのしかったね一年生(3)	

㊦：生活 ㊦：道徳 ㊦：別府学 ㊦：総合的な学習 ㊦：社会 ㊦：家庭科 ㊦：地域教材

()：時数 P：資料「別府学」の頁数

第2学年 租税教育 年間指導計画

	郷土愛	集団と社会的自立	税の学習
4月	⑤めざせ生きものはかせ(11) ⑥しぜん・生きものP2～10	⑤おもいきって行ってごらん (1)	
5月	⑤まちが大すきたんけんたい (6) ⑥わたしたちのべっぷし P14～15	⑤くろぶたのしっばい(1)	⑤たんけんに出かけよう (4)
6月	⑤ぼくの町もひかっている! (1) ⑥でんとう・くらし P12～16	⑤ぐみの木と小鳥(1)	⑤まちのくふうをさがそう(1)
7月	⑤かいらんばん(1)		
9月		⑤きょうからともだち(1)	
10月	⑤えがおのひみつたんけんたい (2) ⑤お世話になっている人にかん しゃして(1)	⑤わたしたちもしごとをしたい (1)	⑤話を聞きに行こう(3)
11月		⑤やくそくやきまりを守って 「町」(1) ⑤はたらくことのよさをかんじ て(1)	
12月		⑤くつかくし(1) ⑤レッドカード(1)	⑤ほんとうにほしいもの(1)
1月		⑤みんなが気持ちよく(1)	
2月	⑤ふるさとに親しみをもって (1)		
3月	⑤おとす人ひろう人(1)		

⑤：生活 ⑤：道徳 ⑥：別府学 ⑤：総合的な学習 ⑤：社会 ⑤：家庭科 ⑤：地域教材

()：時数 P：資料「別府学」の頁数

第3学年 租税教育 年間指導計画

	郷土愛	集団と社会的自立	税の学習
4月	(社) わたしたちの大好きな町 (12) (別) 別府温泉P6～9、私たちの別府市P18～19	(道) 友だち屋 (1)	
5月	(総) 自分の住んでいる町を調べよう (30)	(道) 心の優先席 (2)	(社) 校区探検・公共施設の見学 (4)
6月		(道) わたしのしたこと (2)	(社) わたしたちの市の様子 (13) (別) 温泉を守る人たちP10～11
7月	(道) キツネおどり (1)	(道) 太郎のいどう教室 (1)	
9月	(社) 店で働く人と仕事 (3) (道) ぼくは太郎山 (1)	(社) 店で働く人と仕事 (10)	
10月	(総) 温泉について調べよう (地) 鉄輪を知ろう (40)	(道) こまるのはだれ？これでいいの かな？ (1) (道) みんなでつくろう！がっきゅう ルールブック (2)	
11月	(社) 工場で働く人と仕事 (2)	(社) 工場で働く人と仕事 (9) (道) おばあちゃんのコースター (2)	(社) 工場で働く人と仕事 (1)
12月		(道) 生きたれいぎ (1)	
1月	(社) 祭りやおはやしを受けつぐ人たち (3) (別) 神社やお寺P20～21 (道) こまったときは、おたがいさま (2)		
2月	(社) まちに伝わる年中行事 (3) (社) 郷土資料館をたずねて (2)	(道) やくそくだもん (3)	(社) 郷土資料館をたずねて (1) (別) 古くからの建物P24～25
3月		(道) お日さまの心で (1)	

(生) : 生活 (道) : 道徳 (別) : 別府学 (総) : 総合的な学習 (社) : 社会 (家) : 家庭科 (地) : 地域教材
 () : 時数 P : 資料「別府学」の頁数

第4学年 租税教育 年間指導計画

	郷土愛	集団と社会的自立	税の学習
4月		㊦みんなのためにできること (1)	㊦事故・事件のないまちを目ざ して(11)
5月		㊦さか上がり(1)	㊦災害からまちを守るために (14)
6月	㊦地域の自まんを見つけよ う(5) ㊦ねがいをつみ上げた石 橋(2)	㊦どっちがいいか(1)	
7月	㊦かつおぶし(2)	㊦自分たちにできるエコ活動 (1)	㊦ごみはどこへ(12)
9月	㊦昔のことを調べよう (8) ㊦別府の温泉の歴史P8		㊦石油列車、東北へ向かっ て走れ!(1)
10月	㊦昔から今へと続くまちづ くり(13) ㊦観光のはじまり P14		㊦水はどこから(12)
11月		㊦雨のバス停留所で(2)	
12月		㊦心にブレーキ(1)	
1月	㊦わたしたちの県のまちづ くり(13)	㊦えがおの花大作戦(1)	
2月		㊦図書館で(2)	
3月	㊦「なごみ」のある温泉浴 場(1)	㊦五百人からもらった命(1)	

㊦：生活 ㊦：道徳 ㊦：別府学 ㊦：総合的な学習 ㊦：社会 ㊦：家庭科 ㊦：地域教材

()：時数 P：資料「別府学」の頁数

第5学年 租税教育 年間指導計画

	郷土愛	集団と社会的自立	税の学習
4月		◎わたしと家族の生活（1） ◎幼稚園児と交流しよう（2） ◎うばわれた自由（1）	
5月	◎お米作りをしよう（20） ◎湿地や棚田 P3 ◎シンボルマークにこめられたものは（2）	◎ひみつのトレーニング（1）	
6月	◎いっしょに何をしようかな（1）		◎食糧生産を支える人々（3）
7月		◎やってみよう家庭の仕事（2） ◎バスと赤ちゃん（2）	
9月		◎セルフジャッジ（1）	◎工業生産を支える人々（1）
10月	◎世界の文化遺産（3） ◎お米パーティーをしよう（2）	◎幼稚園児と交流しよう（2）	
11月	◎心を豊かにする工業（1） ◎竹細工 P33	◎藤井駅のホームでのできごと（3）	◎世界とつながる日本の工業（5）
12月	◎情報を伝える人々（4）		
1月		◎救急車（1）	◎じょうずに使おう物やお金（4）
2月	◎ふるさと（1）		
3月	◎生活環境を守る人々（7）	◎幼稚園児と交流しよう（2） ◎明日へ向かって（1）	

◎：生活 ◎：道徳 ◎：別府学 ◎：総合的な学習 ◎：社会 ◎：家庭科 ◎：地域教材

()：時数 P：資料「別府学」の頁数

第6学年 租税教育 年間指導計画

	郷土愛	集団と社会的自立	税の学習
4月	㊦国づくりへの歩み(6) ㊦別府のはじまり P8～9	㊦本当にだいじょうぶ?(1) ㊦夢に向かって～三浦雄一郎～ (1)	
5月		㊦世界がおどろく七分間清掃(1)	㊦大陸に学んだ国づくり (8)
6月		㊦いらなくなったきまり(1) ㊦「マナーからルールへ、そしてマナーへ」 (1)	㊦全国統一への動き(5) ㊦幕府の政治と人々の暮らし(5)
7月	㊦町おこしプラン(1)	㊦松井さんのえがお(1) ㊦負けないで(1)	
9月	㊦別府の歴史や文化、地域を守ってきた人々の努力を知り、自分たちができることを考えよう(27)		㊦新しい時代の幕開け(8)
10月	㊦いちばん近い自然・里山(1)	㊦花びんのある駅(1)	㊦近代国家に向けて(6)
11月	㊦産業の発展と国民生活の変化(1) ㊦別府を発展させた交通 P28～31	㊦すあしにサンダルの天使—マザー・テレサー(1)	
12月			㊦わたしたちのくらしを支える政治(8) ㊦租税教室(1)
1月	㊦これが日本(1)	㊦共に生きる生活(10)	㊦憲法とわたしたちの暮らし(5)
2月	㊦地球があぶない(1)		
3月		㊦生命のメッセージ(1)	

㊦：生活 ㊦：道徳 ㊦：別府学 ㊦：総合的な学習 ㊦：社会 ㊦：家庭科 ㊦：地域教材

()：時数 P：資料「別府学」の頁数

3 授業研究部会の取組

(1) 授業研究部会のねらい

租税教育のねらいにせまる教材や課題のあり方について実践を通して明らかにする。また、指導案の形式を確認し、授業実践をまとめ、教材や課題のあり方について整理する。

(2) 本校の学習過程

本校では、これまで「伝え合う子どもの育成」をテーマにして研究を積み重ねてきた。「出会う」「引き受ける」「学び合う」「振り返る」という学習過程を設定し、教材や課題のあり方やペア・グループ活動の効果的な生かし方について研究してきた。下図はその成果をまとめたものである。

<p>1. 出会う (素材)</p>	<p>前時までの様子, 既習事項 または, 仕組んだ出会いや活動の様子の予想して。</p> <p>○イメージがもち, 興味関心をもつ。</p> <p>グループ学習① 共有するグループ学習 知識の共有や, 簡単な疑問の解消を目的としたグループ学習</p>
<p>2. 引き受ける 課題をつかむ</p> <hr/> <p>考えをもつ (書く)</p>	<p style="text-align: center;">課 題</p> <p>○学んだりこれまで経験したりしてきたことから, 解決に向けて取り組もうとする。</p> <p>○既習の学習や生活経験, 文章事実, 操作活動などを手がかりにして, 自分の考えをつくり, 書こうとする。わからない時は困りを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えやその根拠を, ワークシートなどに言葉, 図, 式などで書きあらし, 各自の考えとその根拠を書く。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">こたえ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">こたえ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">こたえ</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">わけ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">わけ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">わけ</div> </div> <p>グループ学習① 共有するグループ学習 グループ学習② 交流するグループ学習</p> <p>課題をうけ, 自分の考えを交流するグループ学習, ここで簡単な疑問を解消したり, 自分の考えを肯定されたりすることで, 全体で意見を交流しようとするなど, 学習意欲を高める。</p>
<p>3. 学び合う (きく)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループやペア(話す) ・驚き・疑問 ・反発・共感 <p>(考えの交流)</p>	<p>○どこに目をつけ, どのように考え, 活動(作業/操作)したのか, そして, どこが困っているのか, 友だちの考えをきこうとする。</p> <p>グループ学習③ 深めるグループ学習</p> <p>課題にせまる意見が出たときにペア・グループ学習を行い, 多様な考えを交流させ, 一人一人の考えを深めさせる。</p> <p><全体での思いや考えの交流></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの考えや意見を聞き, 比べたり, つなぎ合わせたりしながら, 解決方法を探ったり, 自分の考えを深めたりする。 <div style="text-align: center;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">考え(根拠)の違いを焦点化</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・意見を交流する中で, 自分の考えを見直したり, 友だちの考えを取り入れたりしながら, 解決方法を見いだそうとする。 <div style="text-align: center;"> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">まとめ</p> </div>
<p>4. 振り返る (まとめ)</p>	<p>○本時の課題から, わかったことや友だちの意見を聞いて学んだことをふりかえったり, まとめて書こうとしたりする。</p> <p>グループ学習① 共有するグループ学習 グループ学習② 交流するグループ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りで, 友だちと学んだことを確認させ, 学習したことを定着させるためにグループ学習を取り入れる。

(3) 平成29年度の授業研究

	各学年の指導の重点目標と本授業との関わりについて	教材について（子どもの興味関心を高め、租税教育の重点目標にせまる教材か）	課題について（子どもの興味関心を高め、租税教育の重点目標にせまる課題か）
	<p>重点目標 地域（郷土）の自然や行事を知り、楽しむことができる。</p> <p>主題名 じぶんの町のかがやき（道徳） 資料名 ぼくの町も、ひかっている（光文書院）</p>	<p>○コーちゃんの町のお祭りに参加したことで、ぼくが自分の町のよさを見直そうとする資料で、資料を読み、考えることで、別府の町の祭りに興味をもつことができていた。</p>	<p>課題 200年もむかしからまつりが続いてきたのはどうしてか。</p> <p>○昔からまつりが続いてきた理由（課題）を文章の言葉をヒントに、真剣に考える姿が見られた。 ▲課題を追究するための知識が不足しており、自分の考えを持っていない子どもがいた。</p>
3年	<p>重点目標 ・地域（郷土）の文化や伝統を知り、大切にしようとする。 ・地域（郷土）の人々の願いや思いを知ることができる。 ・公共の仕事や施設の大切さに気づく。</p> <p>単元名 鉄輪の自慢をポスターにして、たくさんの人に知らせよう（総合的な学習の時間）</p>	<p>○むし湯に必要な石菖を確保するために市役所の人々が苦勞していることを取り上げることに、地域の人が鉄輪温泉を大切にするとともに、たくさんの人に鉄輪温泉のよさを広げたいと思っていることについて考えることができた。</p>	<p>課題 石菖を集めるのはこんなに大変なのに、どうして毎月遠くまで集めに行くのかな。</p> <p>○石菖確保の大変さを追究することで、市役所の人々の苦勞が分かるとともに、別府の温泉文化を守ろうとする人の思いに迫ることができた。</p>
5年	<p>重点目標 地域（郷土）の文化を守ってきた人々の努力を知り、愛する心を持つ。</p> <p>単元名 情報を伝える人々（社会）</p>	<p>○別府の地域新聞である「今日新聞」と出会うことで、地域を大切にしようとする人がいること、地域の情報を知ることができる手段があることを知ることができた。また、実際の新聞を比較し違いを見つけることで、それぞれのよさを意欲的に考えることができていた。</p>	<p>課題 今日新聞はどのようにして別府の記事や広告ばかり載せてるのかな。</p> <p>○今日新聞の内容を追究することで、今日新聞にかかわる人の思いにふれ、自分も別府のよいところを大事にしていこうとする気持ちが高まった。</p>
まとめ	<p>○本年度は「郷土愛」を重点目標に設定した授業であった。地域のよさを理解し、地域を大切にしよう、地域をもっとよくしていこうという意欲の高まりがよりよい社会を築いていこうとする諸能力の基盤になると考える。 ▲客観的に別府のよさを調べる活動を仕組むことにより、自分たちの地域のよさや課題がいっそう明確になると考える。</p>	<p>○地域の行事や地域を大切にしている仕事を題材として取り上げることで、自分たちが住んでいる地域を大切にしようとする気持ちが高まった。 ○地域の人やその仕事に携わる人を学校に招いて直接話を聞くことで、その人の別府に対する思いにふれ、自分も別府を大切にしようとする気持ちが高まった。</p>	<p>○子どもが分かっているようでよく分かっていないことに着目して課題を設定することで、子どもが意欲的に追究することができた。 ○地域を大切にしている人の思いにせまる課題を設定することで、人の思いに共感し、自分も地域を大切にしようとする気持ちを持つことができた。 ▲地域に関する知識や体験に個人差があり、課題に対して考えを深めることが難しい。日常的に地域に関する情報を子どもに伝えたり調べさせたりする活動が必要である。</p>

(4) 本年度の実践

①第5学年の実践 (道徳)

◇租税教育との関わり

苦手なことや初めて経験することに失敗を恐れず取り組み、そのことが集団の中で役立つ喜びや自分への自信につながるようにする。

◇主題名 仲間を信じて B 相互理解, 寛容 ◇資料名 まかせてみようよ (出典: 光文書院)

◇ねらい 自分と異なる意見や考えを, よく聞こうとすることによって, 相手の良さと相手への理解が深まることがわかる。

◇授業の流れ

	教師の発言	子どもの発言
1 出会う	<p>友だちと一緒に何かをしようとしたときに意見が違ったときにどうするか意見を出し合った後に、資料前半部分を読む。問題が起こった場面の状況を確認し、自分だったらどうするか、グループで話し合う。(共有するグループ学習) 石井さんを心配だと思っていたのに、「ぼく」が「石井さんにまかせてみようよ」といった場面に目を向けたところで課題を提示する。</p>	
2 引き受ける	<p>課題提示 「ぼく」は本当に石井さんの方がいいと思ったのかな。</p> <p>どう思いましたか。</p>	<p>自分の考えをワークシートに書く) (交流するグループ学習)</p> <p>A: 宿泊学習に行く前、一人で調べているのを思い出したから任せた。本当にいいと思った。</p> <p>B: 心からいいとは思っていない。P4 O L 8に「まかせてみようよ」と書いている。80%は信じているけど、20%は心配していると思う。</p> <p>C: 100%賛成じゃない。P3 8に「大丈夫かな」と心配しているから100%じゃない。</p> <p>D: 最初のころは、20%で、石井さんが地図を見たりして勉強していて、それで80%に上がったから、石井さんを信じて、みんなを誘導した。</p> <p>E: 私は信じてみようくらい。90%くらい信じて10%は心配。石井さんがなかなか考えを変えなくて、「左のコースをどうして選ぶの」って聞いて、「分かれ道が少ない」って理由を聞いて、調べてたことを思い出して、みんなに言ったけど、「どうして」って反対されたけど、90%信じていたら「石井さんが見つけたんだよ」と言って、</p>
3 学び合う	<p>Bさんのわかった?</p> <p>はじめは20%で、それが80%になった。</p> <p>そうか、信じるのも、80%から90%の間に上がったね。その前と後では、石井さんの</p>	

4 振り返る	イメージは・・・ 前は心配だけど、後はいいかもって変わったね。いいイメージで話しを聞くことをよりそうと言います。	みんなも信じる気になった。 F：全然違う！
	もし、みんながこんな場面にあったらどうするか、書いてみて。	石井さんによりそって考えたり思い出したりしたら、石井さんの考えがいいと思えてきた。

◇成果と課題

租税教育について	成果○ 課題▲
各学年の指導の重点目標と本授業との関わりについて	○「苦手なことや初めて経験することに失敗を恐れず取り組み、そのことが集団の中で役立つ喜びや自分への自信につながるようにする」という高学年の指導の重点と重なる内容の資料を読み、話し合うことで、集団や社会のことを考える基礎となる「相互理解・寛容」について、考えを深めることができた。 ▲集団や社会のことを考える基礎となる「相互理解・寛容」について、考えを深めることができたが、集団の中で役立つ喜びや自分への自信については継続・発展した学習が必要である。
教材について（子どもの興味・関心を高め、租税教育の重点目標にせまる教材か）	○進級して2か月弱で、新しい友だちとの関わり方を探っている時期であり、子どもにとって興味関心をひく教材だった。 ▲教材の内容を読み取るのに時間がかかった。教師が説明したり、事前に読み込むなどしたりして、話し合いの時間や振り返りの時間を十分保障すべきだった。
課題について（子どもの興味・関心を高め、租税教育の重点目標にせまる課題か）	○課題に対して、全体での話し合いの中で子どもから「100%でなく、80%くらい信じている」という考えが出て、主人公の相手を見る目の変化へ、話が膨らむことができた。 ▲課題に対してはほとんどの子どもが、同じ意見に偏っていたので、グループによっては、すぐ解決して話が深まらなかった。「ぼく」が、リーダーとしてみんなの意見を尊重すべきではないか。などのゆさぶりが必要だったのではないか。

②第1学年の実践（道徳）

◇租税教育との関わり

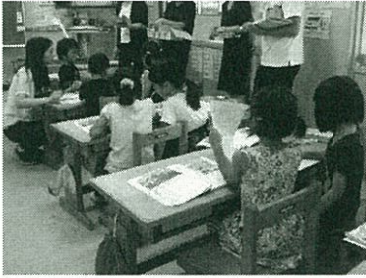
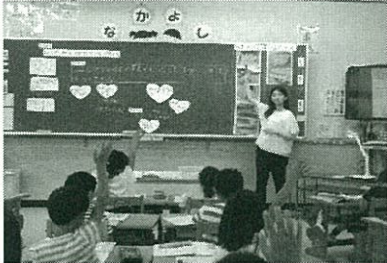
- ・約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。
- ・公共の仕事や施設の大切さに気づく。

◇主題名 みんなのためのきまり C 規則の尊重

◇資料名 きいろいベンチ（出典：光文書院）

◇ねらい みんなで使うものを大切にしたいほうがいい理由を考えることによって、みんなで使うもののきまりを守ろうとする心情を育てる。

◇授業の流れ

	教師の発言	子どもの発言
1 出会う	<p>みんなで使うものと自分で使うものの写真を見て、本時はみんなで使うものについて考えることを知らせる。資料の中で、男の子がみんなで使うものをどう使っているか考えるよう視点を示し、資料を読む。男の子がベンチやぶらんこを大切に使用していないことを確認し、みんなで使うものは大切にしたいほうがよい、という考えになったら課題を提示する。</p>	
2 引き受ける	<p>課題 みんなでつかうものを大切にしたいほうがいいのは、どうしてかな。</p>	<p>自分の考えをワークシートに書く (交流するグループ学習)</p> 
3 学び合う	<p>どう思いましたか。</p> <p>みんなは、いやな気持ちになったことがある？</p>	<p>A：みんなが使うから、大切にしたいほうがいい。 B：公園が泥だらけになっていやな気持ちになるから。 C：独り占めされていていやだった。 D：懐中電灯が壊れてていやだった。</p> 
4 振り返る	<p>みんなで使うものを大切にしたいほうがいいのは、いやな気持ちにならないため？</p> <p>みんなのものを大切にしたら、うれしい気持ちで過ごせるから、みんなで使うものは大切に使ったほうがいいんだね。</p> <p>みんながうれしい気持ちで過ごすために「きまり」というのがあるよ。どんなきまりがあったらいいか書いてみて。</p>	<p>E：大切に使ったほうが、うれしい気持ちになる F：みんなで使うものは、みんながお金を出して作ったものだから、みんなで作った意味がなくなる。 G：みんなのものは自分のものじゃない、大切に使用しないといけないもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書の本をきれいに並べる。 ・机やいすにのらない。 ・公園はきれいに使う。

◇成果と課題

租税教育について	成果○ 課題▲
各学年の指導の重点と本授業とのかかわりについて	<p>○「苦手なことや初めて経験することに失敗を恐れず取り組み、そのことが集団の中で役立つ喜びや自分への自信につながるようにする」という高学年の指導の重点と重なる内容の資料を読み、話し合うことで、集団や社会のことを考える基礎となる「相互理解・寛容」について、考えを深めることができた。</p> <p>▲集団や社会のことを考える基礎となる「相互理解・寛容」について、考えを深めることができたが、集団の中で役立つ喜びや自分への自信については継続・発展した学習が必要である。</p>
教材について（子どもの興味・関心、伝え合いの意欲を高める教材か）	<p>○進級して2か月弱で、新しい友だちとの関わり方を探っている時期であり、子どもにとって興味関心をひく教材だった。</p> <p>▲教材の内容を読み取るのに時間がかかった。教師が説明したり、事前に読み込むなどしたりして、話し合いの時間や振り返りの時間を十分保障すべきだった。</p>
課題について（子どもの興味・関心、伝え合いの意欲を高める課題か）	<p>○課題に対して、全体での話し合いの中で子どもから「100%でなく、80%くらい信じている」という考えが出て、主人公の相手を見る目の変化へ、話が膨らむことができた。</p> <p>▲課題に対してはほとんどの子どもが、同じ意見に偏っていたので、グループによっては、すぐ解決して話が深まらなかった。「ぼく」が、リーダーとしてみんなの意見を尊重すべきではないか。などの揺さぶりが必要だったのではないか。</p>

③第4学年の実践（社会）

◇租税教育との関わり

- ・ 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。
- ・ 公共の仕事や施設の大切さに気づく。

◇題目 みんなが出したごみについて考えよう

◇主眼 私たちが出す大量のごみについて、ごみをそのままにしておいたらどうなるかを想像し、健康、環境、観光、人口、不法投棄、災害などの様々な視点で考えを出し合ったり、関連する資料を見たりすることによって、私たちが生活を営んでいくうえで、ごみの収集が欠かせないことを理解することができる。

◇授業の流れ

	教師の発言	子どもの発言
1 出会う		
	<p>これまでにゴミ調べをしたことや、別府市のゴミの量について学習したことを振り返り、本時のめあて「みんなが出したゴミについて考えよう」を提示する。別府市で出されるゴミの量を確認する。</p>	
	<p>課題 ゴミ出しをしないでそのままにしておいたらどうなるかな</p>	
2 引き受ける	<p>みんなの家、ゴミ出しをしないでそのままにしておいたらどうなるかな？</p>	<p>自分の考えをワークシートに書く。 (交流するグループ学習)</p> <p>A：ゴミが増えたら家がかさくなる。 B：ゴミがいっぱいあると虫が来る。 C：通り道がなくなる。せまくなる。 D：すめなくなる。家の中がばんばん。 E：息苦しくなる。空気がよごれる。 F：ゴミがいっぱいあると、もし地震とかあるとゴミにつぶれる。 G：部屋にゴミがあると、ゴミすてばになる。 H：イライラする。ストレス。 I：ゴミ屋敷で火災が起きたらどんどん火がうつる。</p>
3 学び合う	<p>別府市だったらどうかな？</p>	<p>自分の考えを再びワークシートに書く。</p> <p>J：事故やゴミが増えて道路がふさがって、ゴミで車とか見えなくなって人がしかれたりする。 K：通行止めになって、行きたいところがあるのに遠回りせんといけん。 L：いろいろゴミがあって、衝突する。 M：救急車がいそいでいかんといけんけど、人が助けられなくなる。</p>
	<p>別府市について考えている途中で時間となり、続きは次の時間に行った。</p>	



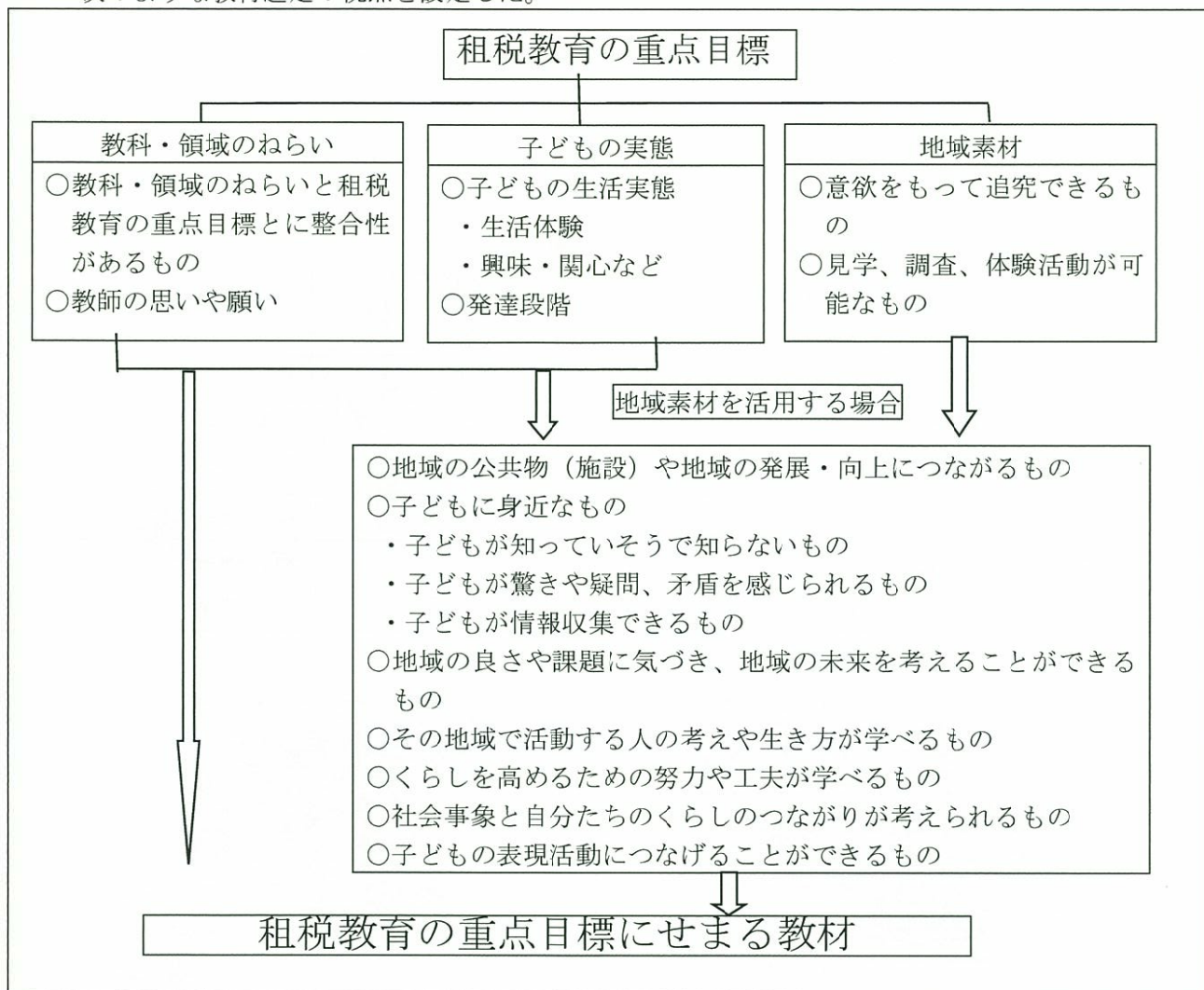
◇成果と課題

租税教育について	成果○ 課題▲
各学年の指導の重点と本授業とのかかわりについて	<p>(集団と社会的自立)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ごみ収集の方法を知るとともに、きまりを守ってごみを出すことは社会の一員として生活する上で大切であることに気づくことができた。 ○ごみを減らすために自分ができることをしていこうという気持ちを持つことができた。 <p>(税の学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ごみ収集や処理が公共の仕事として行われており、その必要性や仕組みについて知ることができた。
教材について(子どもの興味・関心、伝え合いの意欲を高める教材か)	<ul style="list-style-type: none"> ○ごみは自分たちの生活から出ており、身近なものであることから、どの子どもも自分の生活と重ねながら考えることができた。 ○地域の環境をよくするために、公共の仕事が必要であり、そこには税金が使われていることが理解するのに適した教材だった。
課題について(子どもの興味・関心、伝え合いの意欲を高める課題か)	<ul style="list-style-type: none"> ○学習を始める前に、事前にごみ出しを体験し、家から出るごみ調べをしたことは、学習への意欲につながった。 ○自分の経験や生活と重ねながら考えることができたので、一人ひとりが自分の考えをもち、課題に取り組むことができた。 <p>▲課題に対して、子どもたちが考えを出し合うには、内容が多岐にわたるため時間がかかり、ふりかえりまでできなかった。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○租税教室で、身の回りの施設や消防や警察のしくみなどは税金によって成り立っていることを学習したが、それがごみ収集や処理にも当てはまることをよく理解できた。

(5) 授業研究部会のまとめ

①教材について（子どもの興味・関心を高め、租税教育の重点目標にせまる教材か）

本校では、昨年度と本年度の授業実践をもとに、租税教育の重点目標をふまえ、教科・領域のねらいや子どもの実態、地域素材の持つ価値を吟味し、子どもが意欲的に学習できることを願い、次のような教材選定の視点を設定した。



②授業課題について

以下の4点は、課題を設定する上で重要である。

- 子どもたちの興味・関心を引き出す課題
- 子どもの思考の流れに沿った課題
- 子どもが気づいていないところに目を向けさせる課題
- 子どもの意見と現状のズレに目を向けさせる課題



その上で、租税教育のねらいに迫るために以下のような課題のあり方を設定した。

- 地域の現状に目を向け、その背景を考える課題
- 地域の人の思いに迫る課題
- 地域の将来について考えを深める課題

4 環境整備部会の取組

(1) 環境整備部会のねらい

児童が行った学習を、「郷土愛」「集団と社会的自立」「税の学習」の3観点に分けて掲示することによって、児童自身が振り返れるようにする。

(2) 取組内容

各学年の学年掲示板に、「郷土愛」「集団と社会的自立」「税の学習」の3観点に分けた掲示物を掲示するよう提案を行う。

(3) 各学年の取組（掲示板掲載分）

学年	郷土愛	集団と社会的自立	税の学習
1年	6年生との折り鶴づくり 幼稚園とじゃがいもパーティー 2年生と学校探検風景	馬場公園にいったよ 移動交通安全教室	租税教室
2年	鉄輪地獄めぐり	地域見学	租税教室
3年	鉄輪の魅力	町探検	租税教室
4年	社会見学新聞	おじか新聞	租税教室
5年	米作り	社会見学新聞	租税教室
6年	オススメスポット ふるさとの風景	新聞記事を読んで	租税教室 出前選挙

(H30.10.30現在)

【1年】

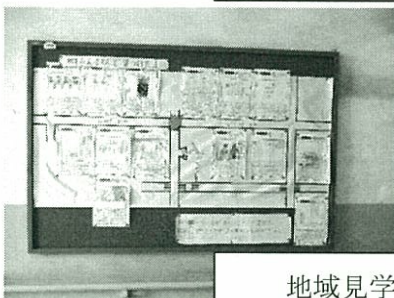


6年生との
折り鶴づくり

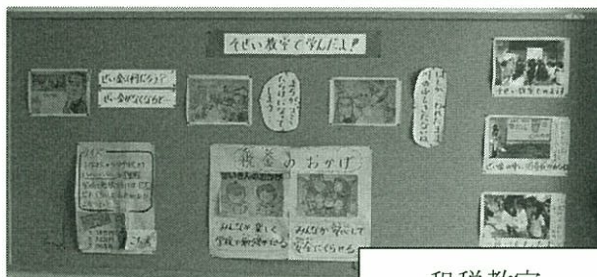


公共の施設
(馬場公園)

【2年】



地域見学

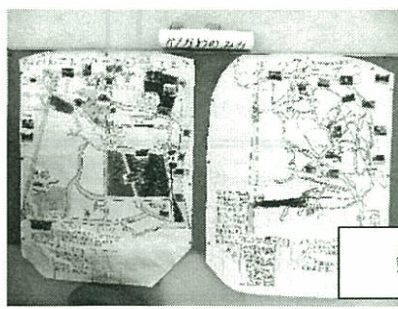


租税教室

【3年】



町探検

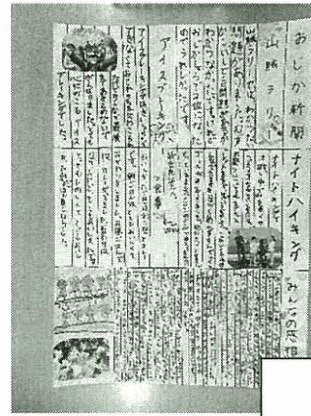


鉄輪の魅力

【4年】



社会見学新聞



おじか新聞

【5年】

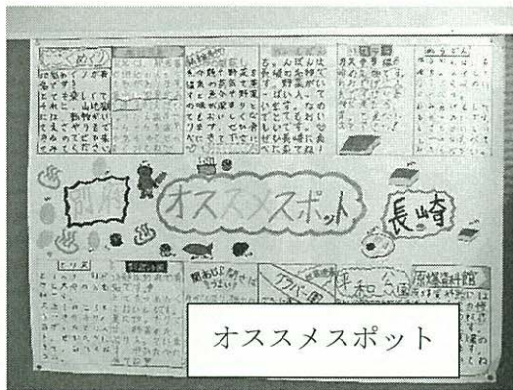


租税教室

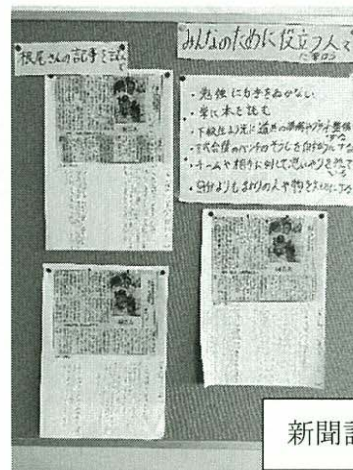


米作り

【6年】



オススメスポット



新聞記事を読んで



ふるさとの風景

【図書館】



租税コーナー

5 租税教室の開催

(1) 第1、2学年

①実施日 平成30年5月31日

②題 目 税金はどんなことに使われているの

③内 容

税金についての紙芝居「福沢先生とおさむ君の税のおはなし」を行ってくれた。

税金は、「ごみを集めたり、橋が壊れたりした時に使われること」「私たちが豊かに安全に暮らせる住みよい町づくりに役立っていること」「消費税や所得税などは、みんなの為に使われていること」を低学年の子どもに分かりやすく話してくれた。

また、子どもたちに馴染みの深い、別府アリーナや竹瓦温泉などの別府の施設が税金を使って建てられていることをクイズで学習したり、子どもたちの大好きなお菓子は消費税も含めていくらで買うことができるのかを考えたりと、生活に密着したお話もしてくれた。



④ 1億円のレプリカ (重さ) 体験

⑤ 子どもの感想 (1、2年生)

ア どんなところに、ぜいきんがつかわれているのかがわかりました。

イ ぜいきんがなかったらなんにもできない。べんきょうになったよ。

ウ ぜいきんがないと、ごみだらけになって大へんなことが分かった。

エ 学校がぜいきんでできていることが分かった。



(2) 第3学年

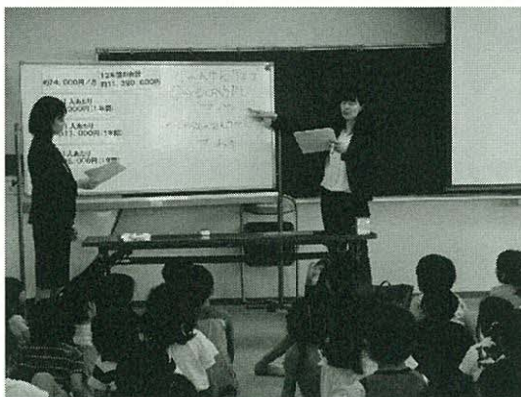
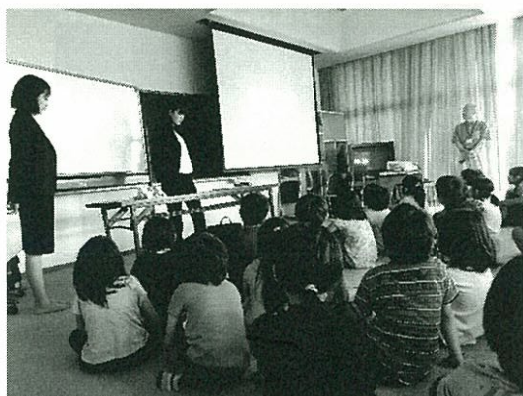
①実施日 平成30年6月8日

②題 目 税金がもしなければ

③内 容

税金がある場合とそうでないときのくらしの様子を、アニメを見ながら教えてくれた。

税金がなくなると、道路を通るのにお金がかかる、町中ごみだらけになる、救急車を呼ぶとお金がかかる、交番の警察官に道案内をお願いするとお金がかかる、公園がなくなるなど、子どもにわかりやすい内容で説明をしてくれた。



④1億円のレプリカ（重さ）体験と税金クイズ

⑤子どもの感想

ア 税金がある世界と税金がない世界は、そうとうちがうのがわかりました。また、税金がない場合、小中高でどのくらいお金がかかるか教えてくれ、びっくりしました。

イ 税金がなくなると、道路もみんなのものでなくなるし、町中ごみだらけになり、きゅうきゅう車をよんだらお金がかかるなど、みんなたいへんになるんだなあと思った。

ウ 税金がどうしてひつようかわからなかったけれど、今日のそ税教室でわかった。税金は、とてもだいじだということがわかった。

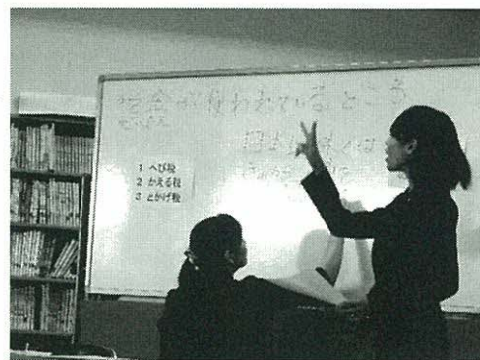
(3) 第4学年

①実施日 平成30年6月27日

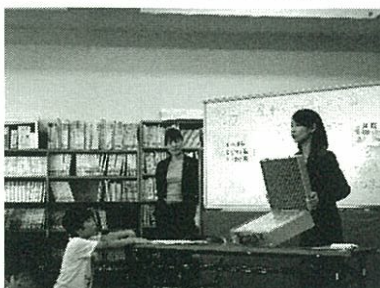
②題 目 税が使われているところ

③内 容

自分たちが住んでいる身の回りの物や施設が税金で作られていることを、アニメを見て学ぶことができた。外国の税金には動物が関係あるへび税やかえる税などの珍しい税金があったことを聞いた。また、日本の警察署や消防署、市役所などには税金が使われていることを説明してくれた。さらに、消費税が8%であり、100円の物を買う時に8円税金がかかることの説明を聞いた。



④ 1億円の重さを体験



⑤ 児童の感想

- ア 学校や市役所、救急車や消防車などに税金が使われていることをわかりました。
- イ 日本では、救急車を呼んでもお金がかからないのに、他の国では、お金がかかることを聞いて驚きました。
- ウ 税金は国の大切なお金であり、みんなが払っているお金なんだとわかりました。

(4) 第5学年

①実施日 平成30年6月22日

②題 目 税の行方

③内 容

租税の学習を行うまで、私たちの身近なものには税金が使われていることを、子どもたちは十分理解できていなかった。前年度の租税教室では、税金が私たちの生活になくてはならないものであることを学び、税金がなくなれば、私たちの今の生活が維持できないことを学習した。そこで、今年度はゲストティーチャーの先生から、税の種類と、税金が集められてから国民の生活に使われるまでの税金の流れとその仕組みについて、パワーポイントを使って説明を受けた。そのあと、日本銀行、税務署、納税者などに分かれ、ロールプレイングを行って、税の流れを学習した。

昨年度、税金は私たちの生活に必要なものであるということは学習できていたが、その税金がどのように徴収され、どのような流れで私たちの生活に利用されているかが今回は理解できたと思う。自分たちの生活の中で、実際に消費税で税金を納めているわけだが、そのお金がどのような経路をたどって、私たちの生活に反映されているかを考える機会を持てたことが成果であった。



④児童の感想

ア 税金は、私たちの生活になくてはならないものだと思った。

イ 国には借金があり、税金は大事に使わなくてはならないと思った。

ウ 税金が、どのように使われているか分かった。

エ 日本銀行が税金にかかわっていることがわかった。

オ 役割を決めて（友だちが演じながら）、税金の流れを教えてもらったのでわかりやすかった。

(5) 第6学年

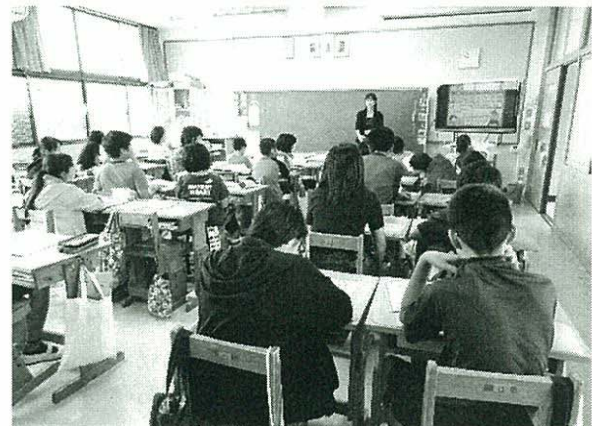
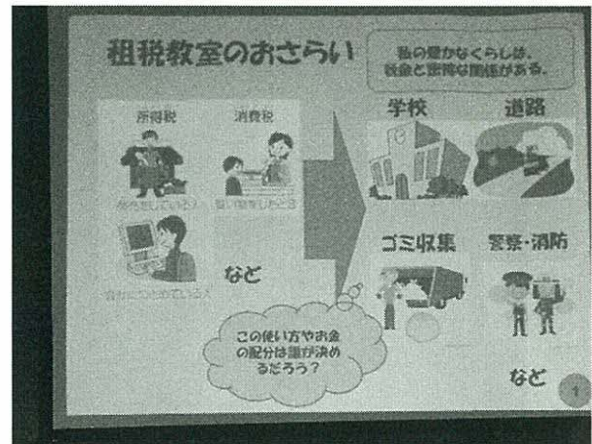
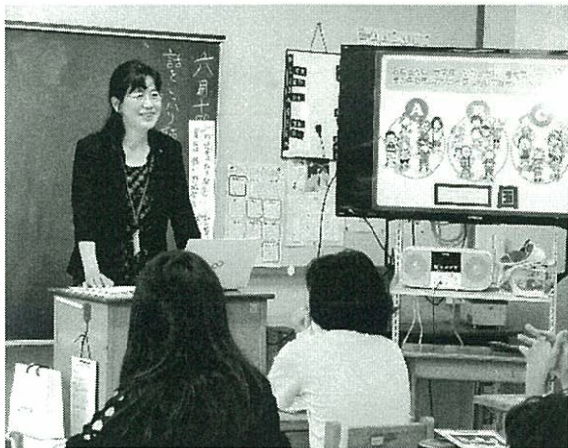
①実施日 平成30年6月14日

②題 目 税って何かな？

③内 容

「公平な納税」についての学習を、パワーポイントを使って説明してくれた。3つのグループ（Aは所得が700万円、Bは250万円、Cは50万円）が300万円を納めるためには、どのような方法があるのかを考えた。子どもたちからは「Aは所得が多いから、全部払えばいい」「みんな100万円ずつ払えばいい」と様々なアイデアが出された。みんなが同じように支払う消費税、一部の人だけが支払う自動車税、所得に応じて支払う住民税など、納め方はいろいろあることを学んだ。また、国債や少子高齢化など、現代社会の課題もあわせて学習した。

最後には、自分たちの納めた税金の使われ方の話になり、国民の代表である政治家が税金の使い方を決めるということを知り、4時間目の出前授業につなげた。



④児童の感想

- ア 税金があるから、今の生活ができるんだと感じました。
- イ 税金の使われ方がわかりました。
- ウ 18才になったら、選挙に行かないといけないと思いました。
- エ A、B、Cチームに分かれて税金の集め方を考えたので、わかりやすかったです。

(6) 第6学年(選挙出前授業)

①実施日 平成30年6月14日

②題 目 選挙へ行こう！

③内 容

1～3時間目に各クラスで租税教室を実施した。4時間目には、6年生が体育館に集まって、選挙講座では、集めた税金の使い方や配分、税金の話し合いのことなどについての話を聞いた。また、模擬投票では、おんせん県知事を決めようということで、めじろん候補とめいすい候補を投票することになった。それぞれの候補の利点や欠点を比較しながら、自分がどちらに投票するかを考えた。さらに、投票については、本物の用紙(模擬投票用)や票を数える機械、投票箱を準備していただき、本番さながらの選挙投票を行った。



④児童の感想

- ア どうやって投票するのかがわかった。
- イ 若い人が過ごしやすい世界になってほしいから選挙に行こうと思った。
- ウ 自分の声を届けようと思った。
- エ 選挙を見直しました。
- オ 若い世代の人は投票参加が必要だということがわかった。

IV 研究のまとめ

1 研究を振り返って

本校がめざす子どもの姿を「①地域に関心を持ち、地域をよりよくしていこうとする態度を育てる⇒郷土愛」「②集団や社会のことを考え、みんなのためになることをしようとする態度を育てる⇒集団と社会的自立」「③租税についての正しい知識・理解を深める⇒税の学習」と捉え、検証をした。アンケート結果より、郷土愛に関する内容では、地域のよさを言える子どもが14.8ポイント増えており、集団と社会的自立に関する内容では、6項目中5項目にポイントの上昇が見られた。税の学習に関する内容では、全項目ともにポイントの上昇が見られた。

このことから、本校が設定した指導の重点目標を達成することができたと考えられる。重点目標を各学年で系統的に設定し、それを意識した授業実践や日々の取り組みが子どもたちの中に位置付いたいったのではないかと考えられる。

2 各部会の取組を振り返って

(1) 意識調査・分析部会

昨年度と今年度で3回のアンケートを実施し、子どもの変容を検証した。アンケートの記述に、自分のことを中心に考えた回答から集団のために何ができるかを考えた回答が増えた。

また、ほとんどの設問で、肯定的な回答の割合の数値が上がってきていることがわかった。地域素材を探し、学習に生かしたり、集団の中で自分の存在を見出したりする学習に取り組んでいたり、租税教室を開催し税に対する知識や理解が高まったためと考えられる。

(2) 地域教材・教育課程部会

これまでの教育課程を見直し、地域学習や別府学を中心に組み立てる学習を一覧表に位置付けた。地域教材を調べていくと、新しく教材を発見できたり、今まで気づけなかった視点で教材化ができた。その結果、子どもの学習意欲を高めたり、具体的なイメージをして理解を深めたりすることができた。地域素材を教材化し、学習に生かすことは、いろいろな人との関わりを持つことができるよさもあり、地域を愛する気持ちにつながっていく。さらに、教師自身が地域の人と顔馴染みになったり、地域について詳しくなったりすることで、深い学びにつながっていく。

(3) 授業研究部会

租税教育における各学年の指導の重点目標を達成するために、1年次では郷土愛を中心とした授業をし、2年次では集団と社会的自立を中心とした授業に取り組んできた。並行して、租税教室を開催し、税に対する知識や理解を深める活動も取り入れた。

地域教材を通して、自分たちが住んでいる地域のことについて調べたり、働く姿を見たり知ったりすることで、地域を大切にしようとする気持ちが高くなり、地域のことを知ったり、よさに気づいたりする気持ちが高くなった。

集団の中での自分について考える学習を通して、自分のよさを見つけることやみんなのために役立つことに対する意識の高まりも見られた。

(4) 環境整備部会

地域のことや集団のこと、税のことなど、学習したことを学びの足跡として校内掲示した。そうすることで、子どもたちの学習意欲の高まりが見られるとともに、継続して意識できるようになっていった。また、自分たち以外の学年の取組を知ることで、興味を一層高めることができた。

考えられる。

3 租税教室を振り返って

2年間にわたり、全学年で租税教室を開催した。どの学年も、発達段階に応じて税に関する内容をDVD視聴や紙芝居、税理士の話、クイズなどを通して学習した。また、税がどんなことに使われているか、税金がないとどうなるかなどのお話を聞き、税に対する知識や理解を深めていくことができた。さらに、6年生は、選挙管理委員会の出前授業もしていただき、税金と選挙のことについても学習することができた。この学習を通して、税に対する意識が高くなり、普段の生活でも税を考えた発言が見られるようになった。

4 今後の取組について

大分県の租税教育の目標から、本校では①郷土愛、②集団と社会的自立、③税の学習を3本柱とし、各学年の指導の重点目標を作成し、その目標達成に向けて研究を進めてきた。今までも地域と関わる学習をしてきたが、実践を通して地域教材のよさを、6年間の系統性を持たせていくことが必要であると感じた。さらに、地域との関わりを持つことで、自分たちを支えてくれた人々がいることや社会の一員として何ができるかを考えることができるように育てていきたいと考えている。さらに、人との関わりを授業の中でも大切にできるよう、ペア・グループ学習を通して、自分の気持ちを伝えることや相手の気持ちを考えること、一つの課題をみんなで解決することなど互いのよさを認める場づくりをしていく必要もある。

平成29年度 研究同人

大分税務署 税務広報広聴官 谷口 卓也
 税務広報広聴官 高濱 明彦
 税務広報広聴官 小倉 大助

校長	高橋 一成	教頭	寺田 康弘	笠村 由美子
	山崎 昭典		舌間 哲憲	日名子 典子
	三宅 由美子		大塚 俊幸	羽野 浩二
	古田 智子		山崎 朱実	林 明子
	古手川 千恵子		三浦 裕美	三浦 陽子
	桑野 裕子		酒井 純	松原 圭一朗
	赤峰 慎一郎		戸田 祐太	古田 菜々
	葛城 優依		甲斐 有紗	安川 憲治
	杉田 文子		渡部 久美	中岡 孝夫
	川崎 亮介		大津留 翔太	

平成30年度 研究同人

大分税務署 税務広報広聴官 小倉 大助
 税務広報広聴官 益永 寿美

校長	高橋 一成	教頭	寺田 康弘	指導教諭	山崎 朱実
	清原 一郎		笠村 由美子	山崎 昭典	
	舌間 哲憲		三宅 由美子	大塚 俊幸	
	神取 葉子		林 明子	白石 藤弘	
	古手川 千恵子		三浦 裕美	三浦 陽子	
	高橋 希和		三重野 恵美	桑野 裕子	
	酒井 純		赤峰 慎一郎	池田 美樹子	
	永井 未央		徳丸 美紀	戸田 祐太	
	中川 佳津希		葛城 優依	甲斐 有紗	
	渡部 久美		川崎 亮介	合家 久美子	
	杉田 文子				

別府市立朝日小学校

〒874-0844 大分県別府市大字鶴見347番地

TEL 0977-67-1353

FAX 0977-67-1359

E-mail a52180@oen.ed.jp

